

【冬（氷・カルタ・雪遊び）】

実践① （私も氷が作りたい）

とても寒かった日、ペットボトルに入れていた氷が凍っていることを発見し、「氷を作りたい！」と氷作りが始まった。夏に色水遊びをした経験を活かして氷作りを始めた。「水に色をつけたい！！」「きれいな実や葉っぱを入れたい！！」と友達と話し合い、駐車場や園庭、玄関の近くを探して南天の実や葉っぱを取りに行った。自分のカップの中に葉や実を入れた後は、「明日凍っていますように！！」「明日凍ってるかな？」等と言い合う子どもの姿があった。クラスの時間に氷のことをみんなで話し合い共有した。

毎朝、氷ができていないかを見に行く子どもたち。思い通りにならない自然物を通して友達と言葉のやりとりができたり、自然と触れ合うことで感性が育ったりしている。また、「昨日は凍っていたのに、なぜ今日は凍っていないんだろう？今日は寒くなかったのかな？」と気温のことも考えている。「（色水を置いている）場所が悪いのかな？」と言っている子どももいるので、次は、色水を置く場所を考えるかもしれない。試行錯誤をしながら、子どもたちは色水が凍ることを楽しみにしている。

実践② （カルタ遊び）

冬のお楽しみ会でカルタをもらい遊んだことから、クラスみんなで自分の名前の一文字を使って読み札と絵を考え、ジャンボカルタを作った。一人で2枚作った子もおり、全部で40枚ほどになり、体育館でカルタとりを楽しんだ。何回か遊んでいると女兒が“たくさん出てくる文字と全く出てこない文字がある”ことに気が付いた。女兒はあいうえお表と作ったカルタを照らし合わせ、出てきていない文字を調べ始めた。そして「無いやつ（文字）作ろう！」と友達に声をかけ、またカルタ作りを始めた。「私“む”するわ、Aちゃん“め”やってくれる？」などみんなで協力しながら、50音全ての文字を使ったカルタが出来上がり、全部で約80枚程度のジャンボカルタとりをして楽しむことができた。友達と協力して作りあげる楽しさを味わい、さらに文字への関心の高まりを感じた。

実践③ （雪遊び）

園庭に雪が降り積もり、雪遊びを楽しみにしていた。さらさらの粉雪の日には「雪合戦」、ぼたん雪の日には「雪だるま作り」というように雪の種類によって遊びを変えていた。遊びを通して自然の変化に気づいている様子であった。また「雪だるま」を作ろうと雪を丸めて転がしていくと、一人では持てなくなり「誰か手伝って～」と友だちと協力する姿が見られた。頭を乗せようとしても落ちそうになるので「ここ（体の部分）をまっすぐにしたらいいんや！」と雪を削ったりしながら乗せることができた。友だちと相談しながら顔や帽子を付け、雪だるまを完成させていた。